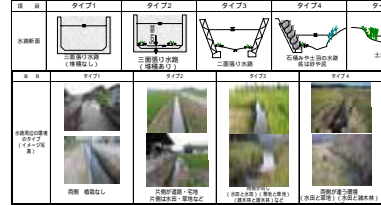


水路評価の流れ

ワークショップで活用する、「生きもの環境水路評価」の手順は、以下の通りですが、事前に生きもの調査を行ったり、専門家からの学習会などを合わせて行なうことで、より充実した検討ができます。

水路の現状把握 (水路のむかしと現在の環境を把握します)

現地で水路構造や水路の周辺環境について確認 (むかし及び現在の状況はどうか) 【外業】



- ・水路の構造は？
- ・水路周辺の環境は？
- ・維持管理の状況は？
- ・底に土などがあるか？
- ・落差工はないか？
- ・魚が生息できそうか？
- ・むかし見られたいきものは？

現地調査

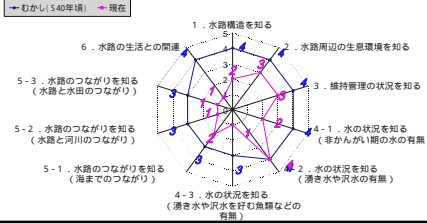


過去の水路はどうだったか、むかし見られた生きものは何か、現在見られる生きものは何かなどを記録していきます。

水路の診断を行う (質問についてむかし及び状況はどうか考える)

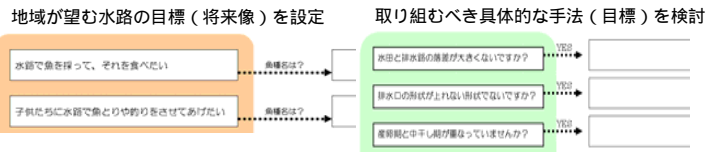
No	質問	昔の状況 (年ごろ)	現在の状況
問1	昔水路内や水田に冬でも水のある場所がありましたか？ また、現在はありますか？	①まったくなかった ②部分的に水があった ③かなりの部分に水があった ④水路全体に水があった	①まったくない ②部分的に水がある ③かなりの部分に水がある ④水路全体に水がある

水路環境の変化の把握 (現状の水路環境がむかしに比べ、いかに変化したが把握します)



レーダーチャートを作成し、むかしと現在の水路環境の変化を把握します。

改善方法の検討 (地域が望む水路の目標や水路環境を少しでもよくする手法を検討します)



結果の整理 (地域振興につながる展開を意識し、地域が取り組んでいく事項を整理します)

室内検討 (ワークショップ)

本ツールを用いたワークショップ (WS) の行程例
評価を行う水路延長長によっても異なりますが約1kmを想定

準備するもの (ワークショップ1班あたり)

合わせて行なうより良い事項 (例)
評価を行う水路、地域で「田んぼの生きもの調査など」を事前に行い、調査結果の発表会に合わせて、このツールを使ってワークショップを行なう。

1回で行なう例

2~3回で行なう例

【外業】
9:00~10:30 (1時間30分)

【第1回目WS】
【外業】
9:00~10:30 (1時間30分)

～現地調査～
調査する範囲の平面図 (1/2,500~1/10,000の平面図を拡大したもの) を1枚
カメラ (ポラロイドカメラなど、撮影した写真をすぐに印刷できるように)
メモ用紙、筆記用具
評価ツール及び補助ツール (下敷き)
魚類の同定や環境教育の際使用

移動時間 (30分)

移動時間 (30分)

11:00~12:00 (1時間)

11:00~12:00 (1時間)

休憩 (第1回目WS終了)

13:00~14:00 (1時間)

【第2回目WS】
9:00~10:00 (1時間)

～室内検討 (ワークショップ)～
調査する範囲の平面図 (1/2,500~1/10,000の平面図を拡大したもの) を7枚程度用意する (むかしと現在を比較するため6枚、取りまとめに1枚使用)
模造紙 (大きい白紙) 10枚程度: 出てきた意見等をポストイット (大きい付箋紙) に書き込み、模造紙に貼り付け、意見集約させるときに使用する

水路の変遷や地域の歴史、水路環境などに詳しい方を講師として、講演会や学習会を開催する。



「評価ツール」の設定に従い、水路環境の変化を把握し、どのような項目が劣化しているかを把握します。
その後、水路環境を良くする手法をみんなで意見を出し合い検討します。

14:00~15:00 (1時間)

10:00~11:00 (1時間)

ポストイット (大きい付箋紙) 様々な意見に対応するため、2~3色あればよい
三角スケール、計算機 水路延長を測ったり、集計するときに使用

水路の改善方法の検討で、魚類の生息環境などに詳しい専門家を招き、勉強会を実施するなど事例や具体的な方法のアドバイスを受ける。

休憩 15:10~16:10 (1時間)

11:00~12:00 (1時間)

【第3回目WS】

補助ツール (下敷き) 魚類の同定や環境教育の際使用
生きもの図鑑など 生きものを同定するときがあると便利
お茶など

水路の改善方法の検討で、魚類の生息環境などに詳しい専門家を招き、勉強会を実施するなど事例や具体的な方法のアドバイスを受ける。

16:10~17:10 (1時間)

9:00~11:30 (2時間30分)

図面での整理は無理か？

(第3回目WS終了)